

ふりかえりシートで頂いた意見

1. 今日の議論で良かったこと

- 日頃から思っている事について話をする事が出来て良かった。
- 短時間で意見をしっかりまとめてくださったファシリテーターの方にとっても感謝しています。こんなに西荻を愛するだけでなく、具体的に行動する方が多いことを知ることができて良かった。
- 有識者の話が聞けたこと。
- 自分のことばを出し合ってよい話し合いができて良かった。
- 一人ひとりが、しっかりと意見を述べておりました。
- 一緒になった皆さんがまじめでポジティブな人たちで良かったです。
- 補助 132 号線の重要性が理解できた。皆さんが真摯に西荻窪の発展を考えていることがよくわかった。ファシリテーターは適切なコントロールだった。
- 有識者の話があり、今回が第一回目のように感じた。人を中心にした道路を考えるという意見が新鮮だった。
- 皆さん建設的に意見出しがされ、課題と思っていること等が共有されて良かったと思います。
- 講師の話が良かった。
- 話題提供での、国士舘大学の寺内先生の話は大変興味深く、もっと聞きたかった。このような機会を設けて、住民、区役所の方と協調して進めていくのはとても良いと感じた。
- ファシリテーターがうまくグルーピングしてまとめていただきました。
- 資料をパネル展示してあったのは、問題を考えるうえで大いに役立ちました。準備してくださってありがとうございました。ただ、同時に、（仮称）デザイン会議は補助 132 号線の問題に限定して考える、という議論の流れになってしまった残念さがあります。
- 情報提供は、車・交通の視点と、人からの視点の両方があってとてもよかった。寺内先生がおっしゃっていた、道路づくりは立ち退く当事者にとって人生を変えるほどの非常に大きな影響を及ぼすことを忘れてはいけない、とい

う言葉が心に残った。それでも、だからこそきちんと前に進むべきだと改めて思う。下北沢の事例から、今やっていることは10年以上かかる取組のスタート地点なのだという気づきを得た。寺内先生が、意見が違う人を排除してはならないということを言っていたが、会議の最後に発言した人を見て「反対意見の人もしっかりといるのだな」と思った。そういう人が来られる仕組みは守らなければならないと思う。

- 西荻窪に引っ越して約2ヶ月ということで今回初めての参加だったが、活発な議論がなされていて、街のことを本気で考えている場であると再認識できた。有識者の知識を入れながら、ただ書くだけでなく活用できるかを検討する時間が設けられているのがよかった。
- それぞれの立場から、意見が自由に出たこと。
- 参加者の皆さんのご意見を広く聴くことができ、補助132号線問題について、ほとんどの皆さんが反対しているということがわかりました。ただ行政では、80年程前に決まった法令で定められていることに従わざるを得ないと言う縛りがあり、現代の暮らしを妨げている事実も理解できました。
- 質問の立て方が「良かったこと」としているのは問題である。なぜなら、「悪かったこと。悪いと思ったこと」を書きにくいからだ。むしろ今後、第5回目以降は「議論について思った事、感じたこと、今後に向けて議論を踏まえ提案したい事」など様々な視点から意見が出せる質問項目に変えてほしい。改めて、今回の議論で良かったことは印象に残っていない。ただし、撤収を区の職員と区民が協力してできたのは良かった。
- テーマ別に分けず、参加者からそれぞれの意見を引き出したこと。（グループごとに進行方法は違ったかもしれませんが）私のグループではご自身の過去や経歴、今の希望を話しながら何をやりたいかの意見を述べました。それによって、緑とコミュニティ豊かな街とその手法などについて話すことができました。
- 最後に住民の多くも撤収を手伝ったこと。

2. 内容について言い足りなかったこと

- 道路の話ばかりで、現在進行中のオオゼキ近辺の使用について、どんなふう
に利用したいのかなどについて話がしたかった。
- ハロー西荻について、もっと詳しく話したかった。
- 補助 132 号線の拡張工事は税金の無駄使いです。西荻の街を破壊します。善
福寺川のトンネル工事で陥没が起こった場合、不動産価格が下がります。保
障してくれるのでしょうか。
- 北口・南口を統一して道路の拡張を含めて中期のマスタープランを用意した
らいかがか。ＪＲ西荻窪駅と「町のにぎわい」を取り戻すため、区との連携を
図れないか。
- 西荻窪をいじらないでもらいたい。職員は勉強で終わらないようにしてもら
いたい。
- 移動制約者は、情報障がい者でもあります。移動制約かつ情報障害である視
覚障がい者が参加せずにまちづくりを進めることに違和感を感じます。合理
的配慮を怠らず、視覚障がい者を積極的に参加していただけるよう自治体と
して努力をしていただきたい。西荻北だけで、10 名近く視覚障がい者が住ま
れています。
- 自分自身は現時点では無いが、道路拡張反対ありきの方々が、言い足りなそ
うで議論の場としては中途半端な形で終わったように感じた。今現在、何が
決まっていて、いつまでに何を決める、話し合うのかが少し不明確な気がし
ました。この会議の位置づけ、誰が、いつまでに、何に基づいて、何を決める、
話すのかを明確にしないと、ただ場を設けただけで終わってしまうことを懸
念します。
- 自転車の交通や駐輪の問題を西荻窪全体でどのように考えていくか、大事だ
と思いつつ時間が足りませんでした。
- 補助 132 号線は各論の一つです。まず西荻のまちづくりという「総論（グラ
ンドデザイン）」を話し合い、そこから各論を進めていった方が合理的です。
補助 132 号線に引っ張られすぎて、他の論点、例えば善福寺川上流調整池事
業と環境保全、さらに環境保全と歩きやすいまちづくり、次世代に渡したい
西荻、という広い視野、長期的観点からの議論に発展しなかったのは残念で
す。

- 全体の進め方のボードで、そろそろ会議の名称を決めたほうがいいという意見があったが、そのとおりだと思う。下北沢の事例にあったように、時間や進捗に応じて変わっても構わないのだから、運営会議で案を出し、次回決定してほしい。
- 会場では行政事業の賛否について申し上げるというのは会議の趣旨に反するということだったので控えていたが、会議に参加してみて抱いた感想を記したい。補助 132 号線再整備について、結論として無条件に賛成はできない。再整備におけるステークホルダー、特に地権者が多く時間と費用が想像以上にかかるのではないかと考察している。ただでさえ長い検討時間を使っているのに、さらに時間がかかると実現はいつになるのか、整備が完了したときには住民層が変化している可能性も否めない。仮にもし、「検討時間を十分に取った」という既成事実を作るためのワークショップの開催という考えがあるのだとすれば、それは住民をあまりにないがしろにしている。そもそも歩道の整備自体はできているし、自転車レーンの標識も整備されている。乗用車やバスなどの通行性が良くないという現状は理解ができるものの、ウォーカブルなまちづくりを検討する上でいまの現状を全て壊す必要性を感じない。通行性が良くないという現状があるのだから、いまの道を条例クラスの規範でマイナーチェンジし、一方通行化する・通行止時間帯を設定するなどで十分対応可能ではないか。
- どの分野でも、"道路"の話題が顔を出しているのに、「テーマ部会」のサンプルに、「道路」が取り上げられていない。話題提供者の先生も、自由な発言をされるのは当然だが、道路については、「拡幅工事ありき」のニュアンスを感じた。"道路"については、既成事実ということなのではないでしょうか。
- 既存の法令では、道路や自転車道、人の通行等問題解決には至らないのではないか。

〈限界〉

- ①人口増による街のキャパシティの限界。
- ②規則によって、棲み分けを行う事による限界。
- ③落としどころの論点の限界。それぞれの立場で言い分があり、なかなか決まりそうにない。

〈改革〉

ヨーロッパのまちづくりとアジアの街づくりの違いの講義を受けたことがあり、石やレンガが出てきた。ヨーロッパの街に対して、木や草や、土でできたアジアの街は、季節や状況に応じてその形態を変えることができる、と言う内容でした。詳細につきましては、また機会がありましたらお伝えさせていただきますが、それを踏まえ、

①曜日や日時によって通行の形態を変える。これもなかなか難しいものがあるとのこと意見でしたが、ある程度できるのではないかと思います。

②車の通行や自転車の通行を規制すれば、人や動物だけの通行問題や居住空間の問題となります。このような場合、身体感覚を変えることで、すべての人にとって非常に心地が良い空間となります。つまりとても幸せなまちづくりが生まれるのです。これにつきましても、詳細はまたお話しできればと思います。

- 1.講師の寺内義典国士舘大学教授が最後に締めくくると「都市計画道路は計画通りに進み、広く恩恵を得る人がいる一方、土地収用をされる人々が出るが、計画遂行上仕方がない」というような趣旨の発言は、補助 132 号線の認可区間の土地収用の進捗状況や、全計画上の認可区間の割合からそんな結論を出す状況ではない現実に反する発言だった。寺内氏をどのような理由で講師として選んだのか、運営会議や次回に明らかにしていただきたい。
- 2.上記のような問題発言があったにも関わらず、寺内氏の発言への反論を 1 人しか認めなかった全体ファシリテーターの運営の仕方は問題があった。
- 3.また、各班の結果発表の時間もなく、個人の意見を全体に向けて発表する時間を設けなかった進行は問題があると思う。そもそも今回のプログラムは無理があったのは否めない。グループ討議も、その前の講師の話も、各 1 つずつにすべきだったと考える。進行者の技量もあろうがテーマ設定ややり方をもっと工夫すべきだ。
- 4.「整備効果」についてのパネル展示は、住民と行政が公正な立場で開催するはずの（仮称）デザイン会議で、行政が一方的な意見の開示に終始しており、会議の趣旨と反する。
- 5.「整備効果」は 7 月ごろのオープンハウス形式で行うとのことだが、ぜひ、オープンハウスはやめて、着座にて一堂に会する会場で説明会をしてほしい。なぜならば、オープンハウスでは他の区民の意見を聞いたり・聞いてもらっ

たりが難しいのと、行政側の意見を区民みんなで共有しにくいからだ。

6.(仮称)デザイン会議 ふりかえりシートは、2次元コードの他に、URL を列記して欲しい。PC から入力する人もいるので。

- 住民と行政が公正に開催する筈の「デザイン会議」で区が一方的に「拡幅の検証効果」のみを発表したこと。住民の反論も一緒に掲載させて欲しいという要望書が提出されましたが受け入れられませんでした。今後は、このような公正を欠くことのないよう、パネル展示には住民の意見も貼り出すようにしていきたいでしょう。
- デザイン会議の第1回目から議題にあがっている、空地整備プロジェクトが始まりません。すでに、橋近くの空地の夏草は伸び、虫発生の温床、街の景観を著しく壊し、商店会が迷惑しています。除草ボランティアも集まっているので除草はやらせて欲しいことは伝えています。すぐに活動を始めましょう。
- 今回の寺内さんのお話がとても印象に残りました。ライフワークとして取り組んでこられた「良い道路とは」は本当に誰もが関係するのでもっと深く知りたいと思います。補助132号線計画が作成されたのは60年以上前と聞いていますが、その当時はクルマも今より少なく、乗り合いバスも今ほど大型ではなく中型のボンネットバスでした。それでも道路を広げるべきと計画したのはなぜなのかを都市計画の専門家である寺内先生にお聞きしたかったと思いました。自転車、バイクも多くなった現状では今の道路幅では危険が大きくそのためにも広げてほしいと考えています。なにより現状では歩道が狭くて不便です。お話しにあったように、世界中の都市で歩行者の安全と交通網の充実をどう実現するか取り組んできて、残念ながら日本ではそのよいお手本が見られないようです。道路は狭いほうが良い、といった極論もあるようですが、寺内さんのおっしゃったような「多くの広い人が薄くメリットを享受するわりに立ち退き当事者が痛みを引き受ける道路拡幅計画」というような視点を住民が広く持つことが大事ではないかと思っています。交通量調査をしてみよう、という参加型のものも良いとは思いますが、30年、50年後のイメージを持つことは難しく、人口が減るのだから今のままで良いというよりも、安心安全を考えることから始めたいと改めて感じました。別件ですが、駅を中心に今中野区が恐ろしい勢いで再開発に邁進しています。中野区民の知り合いによれば、その計画などの説明会もなければ問題視で騒がれる

こともなく、そういうやり方で全てが進んできたので疑問すら持たないで来たそうなのです。西荻は住民がまちづくりに「アツイ」とみられているようですが、その熱量をお互いのネットワークや日常の交流にさらに生かしてゆくことが住みやすいまちづくりにつながるのではないかと思います。いろいろな人と出会える、それが一番の収穫だと思います。

3. 今日の会議の進め方について

- とても分かり易く良かったと思います。沢山の人たちの意見を聞くのは大変な作業だと実感致しました。
- 寺内義典さんの 15:25 分頃の発言には、やはり問題がありました。15:30 頃の参加者からの反論のとおり、別の講師による「学習会」をすることが大事です。
- 寺内先生の最後のコメントが西荻の状況を踏まえていない不適切なものだった。参加者の意見を誘導するものと感じた。補助 132 号線反対派も、この場では道路ができる前提で参加すべきといった内容だったが、そもそも補助 132 号線計画は住民が整備拡張を望んで始まったものではない。鉄道問題(下北沢)といった課題がある訳でもない。西荻の道路拡張反対に対する理解なしでひどい締めくくりであった。
- あふれる想いが多い方と、意見が多い方の聞き役になってしまい圧倒されてしまった。ちょっと怖かった。
- 今まで含めて会議に出た意見が区に伝わっているのか不明。区からのフィードバック(〇〇は進めている、難しいなど)がほしい。
- 進行役の方がとても良い進め方をしておりました。
- 補助 132 号線の拡幅工事ありきで会議運営がなされていて疑問があります。
- 時間通りにコントロールができて良かった。道路の拡張部分については時間がかかりそうだと感じた。
- いつもどおり早口で時間ばかり気にしていた。落ち着かない雰囲気。
- 土曜日の昼間の開催ではご商売されている方は参加できないのでは。多くの方の意見集約や参加者を募る目的ならば、ぜひホームページ等を開設して、活用しては、と思います。

- 会議自体は、良かったと思います。まちづくりですので、マイノリティを置き去りにしてはいけない。そこで、開催準備に対して合理的な配慮を求めます。また、さまざまな方が、参加した場合に合理的配慮を求められます。
- 初回参加だったが、とても重要な議題であったと思いました。もっと多く、年齢、立場の異なる方に参加してもらうべきだと思います。会議を知らない、会議に出にくい、出られない人もたくさんいるため、HPに掲載、SNS活用、駅前に情報共有ボードを設けるなど、参加者、意見を募るべきだと思います。
- 障がい者を受け入れる体制が整っていなかったと思います。今日の場所はスロープなどは整っていましたが、さらに欲しかった設備として、多目的トイレ、長時間の座位に耐えられる椅子、冷暖房がしっかり効く部屋（体温調節ができないため）は、最低限あってほしいと感じました。ユニバーサルデザインの視点を大事にするのであれば、まずは障がい者が参加しやすい環境の整備を望みます。
- 時間配分など良かったと思います。
- 今回は講師選びに失敗したのではないのでしょうか。国士舘大の先生は、明らかに不勉強でした。さらに参加者の行政に対する不信感を煽り立てるような発言を最後に平然としていたセンスにも驚かされました。各班のファシリテーターさん、もっとトレーニングしていただいた方がいいです。あるファシリテーターさんは、物事の「大分類」「中分類」「小分類」という階層についても理解できなかったようで、かなり無理な図を描いてお茶を濁していました。当然、「単なるガス抜きの場になっていた」という声も出ていました。 外部の方を（有料＝税金で）ファシリテーターとして招くのなら、トレーニングはしていただいた方がお互いに気持ちよく議論を重ねることができるのではないのでしょうか。
- 今後は、視覚障害、身体障害、知的障害など多様な障がい者を集めた、一般区民とは別の会議が必要だと思います。障がい者同士でも問題の内容が違うので、それらをまず表に出す必要を感じました。そこに、障害と街のデザインに詳しい専門家や医学的見地から語れる理学療法士や作業療法士を加えて意見をまとめることは意味があると思います。会議に出てみて、一般区民とは公共の考え方に乖離があることがわかったので、一旦、別にして話し合う必要があると感じました。もちろん一般区民とともに話し合い、障害の存在に気

づいてもらう意義も理解できるので、(仮称)デザイン会議に障がい者がもっとフランクに参加でき、一般区民と障がい当事者や家族と一緒に意見交換できる方法を考えていただきたいと思います。このような会議には、もっと障がい当事者が複数人参加する必要があると思います。1人では一般区民のナチュラルな無関心に心が折れてしまいます。

- この会議ではグループ討議が含まれるため、西荻在住・在勤でない方はオブザーバーとしての参加のみにとどめていただいたほうがいいように思った。最後の反対派の人に2分与えたのは温情だけれども長すぎる。イレギュラーには1分でいいと思う。交流タイムはとてもいいアイデアだと思った。
- 大きくは会議の位置づけについて、2点違和感を感じたのでここに記したい。1つ目は会議のあり方や目的について、認識をすり合わせる場を設けるべきだということである。議論を俯瞰してみると、「補助132号線の再整備をすべきなのか」というそもそも論が展開されている印象を受けた。その原点に立ち返って議論をしてほしい住民サイドと、整備はあくまで既定路線であるとする行政サイドで認識が食い違っており、議論の土台すら完全に作りきれていないように感じる。まずは再整備について「既定路線とするかどうか」、「整備を必ず進めるべき理由は何か、根拠はあるのか」から説明責任があるように感じる。2つ目は目的と手段をはっきりさせてほしいということである。1つ目の内容に付随して、「①西荻窪の将来像実現」と「②補助132号線再整備」の2つの事業の関係性がごちゃごちゃになっているように見受けられる。行政サイドの目的はあくまで②、そのための①の実現というようなスタンスなのに対して、住民の意識は真逆であり、目的は①、②の補助132号線はあくまで手段にすぎないというように感じた。私はまだ会議への参加歴が浅く、議論を俯瞰して見られていると自負しているが、それを仮定してもなお住民意識の方が議論の仕方としては正だと感じている。さらに、行政サイドの目的手段を仮定したとして、①と②のつながりが明瞭でないように感じる。補助132号線再整備と街の将来ビジョンを描くことが、どのように結びつけられるべきか、それぞれの議論の目的をどう位置付けるかについては住民意識と行政の方針の認識の齟齬があると思われ、今後議論していく部分ではないかを感じる。
- "適切な人材"の発掘、が大切、との意見があったが、賛成。今後、実際に討議

を重ねていくことになるが、現在の商売を営まれている方から「商店の人間は忙しいので、定例的な会議への参加が難しい」旨の発言があった。実際の現場の声を汲み、なおかつ、円滑な対話を進めることができる人材が重要だと思います。

- 途中参加でしたので、全体については分かりかねますが、途中からでも十分に受け入れてくださったことに感謝いたします。
- 区が招へいした事例紹介の専門家が、最後に質問に答えていた時、なんの脈絡もなく「都市計画の拡幅は進行する」という発言をし、参加者を誘導しようとしたこと。これは絶対にやめて下さい。そういう一方的な発言が出たときは時間のあるなし如何にかかわらず納得できない住民側からの意見が出ます。むしろ、3回目まで最後に住民からの意見も求めていたので、毎回住民の意見を求める時間を復活しましょう。